

慢性咳嗽患者および健常人におけるメサコリン誘発咳嗽の検討

金沢大学大学院 細胞移植学呼吸器内科 大倉徳幸、藤村政樹、徳田麗、片山伸幸、阿保未来
金沢大学附属病院検査部 中出祐介

【目的】慢性咳嗽患者及び健常人におけるメサコリン(Mch)吸入による気管支平滑筋収縮と誘発咳嗽について検討する。

【対象と方法】咳喘息患者(CVA) 8名、アトピー咳嗽患者(AC) 6名、気管支喘息患者(BA) 10名、及び健常成人(NC) 20名を対象とした。部分および全フローボリューム曲線よりFEV1,MEF40,PEF40を測定した。MEF40、PEF40とはそれぞれ40%努力肺活量位での全フローボリューム曲線(MEF)と部分フローボリューム曲線(PEF)上の最大呼気流量(L/sec)である。Mch吸入負荷は2分間安静換気法で行い、PEF40が35%減少時のMch濃度(PC35-PEF40)および、FEV1が20%減少時のMch濃度(PC20-FEV1)の吸入中および吸入後30分間の咳嗽数を記録した。

【結果】NC, CVA, AC, BA群のPC35-PEF40の幾何平均値は、それぞれ6.12, 0.94, 12.9, 0.77 mg/mlであった。NC, CVA, AC, BA群のPC20-FEV1の幾何平均値はそれぞれ54.6, 3.07, 84.3, 1.82 mg/mlであった。NC, CVA, AC, BA群のPC-35PEF40濃度でのMch吸入中および吸入後30分間の咳嗽数の中央値はそれぞれ0.5, 61.5, 17, 0 回/32分であった。NC, CVA, AC, BA群のPC20-FEV1濃度でのMch吸入中および吸入後30分間の咳嗽数の中央値はそれぞれ10, 35.5, 16.5, 2.5 回/32分であった。

【考察】咳喘息患者は健常者に比べ気道収縮に対する咳嗽反応が亢進している。一方、喘息患者は健常者に比べ気道収縮に対する咳嗽反応が減弱していることが示唆された。